

採用選考活動に参加する追加的機会を 学生に提供

— 産学協議会が「産学共同ジョブ・フェア」を開催

経団連と国公私立大学のトップで構成され、2019年1月に設置された「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」（経団連側座長・中西宏明会長、大学側座長・大野英男就職問題懇談会座長・東北大学総長）では、「Society 5.0実現の鍵は人材である」との考えに基づき、大学教育や企業の採用・処遇のあり方等について議論を重ねている。2020年3月31日には、それまでの検討の成果をまとめた報告書「Society 5.0に向けた大学教育と採用に関する考え方」を公表した（本誌2020年6月号特集参照）。

産学協議会では、新型コロナウイルス感染症の拡大により、就職情報会社等が主催する合同企業説明会が軒並み中止となったり、各社の採用選考活動が例年とは異なるプロセス、時期、方法で進んだりしていることに不安を感じている学生が多いとの指摘を受けて、2

020年3月以降、学生の不安を払拭するための対応を取ってきた。3月31日には、報告書の公表とあわせて「新型コロナウイルス感染症に伴う2021年度入社対象者の採用選考への対応について」を発表し、本年の採用選考活動にあたり、産学が連携して特段の配慮を行うことを表明した。

しかし、5月に開催された産学協議会の中核メンバーによる幹事会では、大学側からあらためて、学生の不安を払拭するメッセージを出してほしいとの要請があったため、5月29日、学生の不安が解消されるよう、企業・大学・産学協議会のおのの取り組みを示したメッセージ「現在、就職活動を行っている学生の皆さんへ」を公表した。

このなかで、企業は弾力的な採用選考活動を実施するとともに積極的に情報開示を行うこと、大学は入学・卒業時期を複線化すること

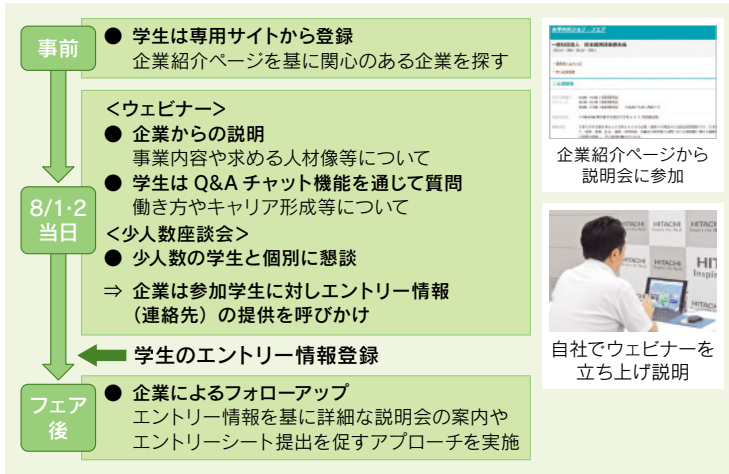
とをそれぞれ表明したが、産学協議会としては、学生が企業説明会・採用選考会に参加する追加的機会を提供するため「産学共同ジョブ・フェア」を開催すると宣言した。

オンラインでの企業説明や 少人数座談会を実施

こうして開催することとなった同フェアは、コロナ禍によるキャンパス閉鎖の影響で各大学の授業日程が後ろに延びた状況を踏まえ、週末の8月1日（土）・2日（日）に行われた。

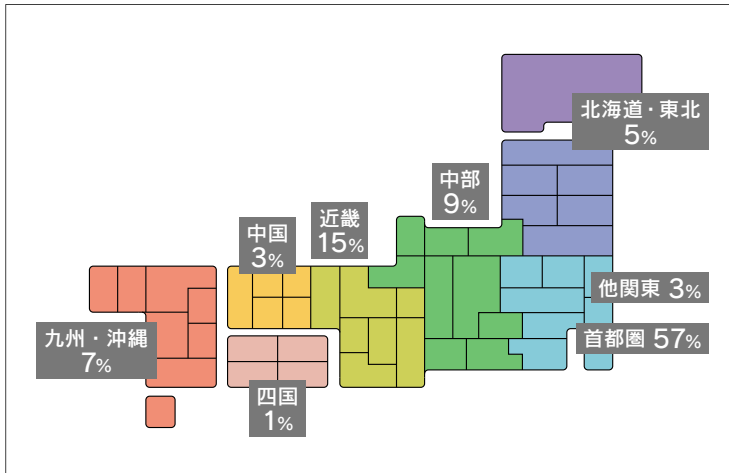
産学協議会では、経団連の会員企業・団体と、各地域の経済連合会および経営者協会の会員企業・団体に案内して参加企業を募る一方、学生には、産学協議会に参画している各大学団体から加盟大学のキャリアセンター等を通じて案内・参加の呼び掛けを行った。対象は大学4年生、修士2年生、短大・高等専

図表1 ジョブ・フェアの流れ



門学校の最終学年在籍者で、既卒生や留学生も含むとした。コロナ禍のなかでも全国から多くの企業と学生が参加できるよう、オンラインでの開催として、参加企業が会議アプリを使って、①ウェビナー(大人数向け説明会)、②事前予約制の少人数座談会、③予約不要の少人数座談会―を任意に選択・実施する形式とした。一方、学生は各自の端末から関心のある企業を業種・職種、勤務地などに応じ

図表2 地域別の参加学生情報



て探してウェビナーや座談会にアクセス・参加し、Q&Aチャット等を通じて働き方やキャリア形成などの質問を寄せ、さらに関心があれば自身の名前を登録(エントリー)する。そして企業は、登録情報をもとに自社の採用ページ等を紹介するなどフォローアップを行い、選考プロセスへのエントリーを促すという流れにした。

今回のジョブ・フェアの成果

開催決定から当日まで約2カ月と短期間ではあったが、産学協議会が主催するイベントであることから一定の関心を集め、全国の63社・団体が同フェアに参加した。その多くが、登録した学生に対し、自社の採用ページへの誘導やエントリーへの案内、選考を伴う面談等への案内を実施しているとのことであり、学生に採用選考活動に参加する追加的機会を提供するとの所期の目的は達成できたと考える。

一方、参加登録学生数は、各大学団体の協力もあって最終的には約2500名となった。オンライン開催としたことで地方在住の学生も容易に参加できたことから、首都圏(1都3県)以外の学生の登録が4割超にのぼった。企業担当者からは「オンライン開催により従来は接点を作りにくかった層の学生へ接触の機会が得られた」との声も寄せられ、企業にとってもメリットとなるイベントにできたと考える。

産学協議会では、今回の成果も活かしながら、3月の報告書に掲げた2030年のあるべき採用・インターンシップの姿を実現すべく、今後も産学でさらなる協働・連携を進めていく。

(SDGs本部…採用と大学教育の未来に関する産学協議会事務局)